

緑のふるさと協力隊員・千葉遥加の奮闘記

風ノハルカ

Chiba Haruka volume4

協力隊活動期間もあと半年。精一杯頑張ります

協力隊として本町に派遣されてから、半年が過ぎました。起承転結の「転」の部分ににさしかかり、これから自分に何ができるかを考える時期です。

現在、主な活動先も地名の農林業センターから千頭の音戯の郷へと変わり、活動の内容も大きく変わりました。音戯の郷にはいろんなお客さんが来館します。家族連れ、カップル、バスツアーのお客さんなどはもちろん、外国の人や一人旅の合間にふらりと立ち寄ったという人もいます。

祝日・休日は、ごった返して館内は大わらわ。子どもたちの元気な声が絶えることがありません。それに対して平日は静かで、もの寂しいときもありますが、そんなときは行事の装飾の準備をしています。

今は「ハロウィン」の準備です。主にカボチャ、魔女、こもり、黒猫などなど…。ちくちくと裁縫をしていると無心になれます。行き当たりばったりで作り始めても、案外何とかなるものです。形がいびつとはいえ、一枚の布から作品ができ上がると、大きな達成感を感じます。また、折り紙での飾りも作るんですが、この折り紙も改めて触ってみると、一枚の紙から多様な作品ができておもしろいです。色を変えれば、また違った趣になりますし。先日はカボチャとお化けを大量生産しました。使えるかどうかは別問題ですが、とにかく、楽しむことが先決なんだと思います。

今は、飾りでも何でもお金を出せば手に入りますが、こうして一から自分で作るのも楽しいものです。同じモチーフでも、まったく同じものは2度とできあがりませんし。いつも自分には関係のないことだと、気に止めることもないさまざまな行事ですが、観光施設にいとそうはいきません。

今は少し、農作業から離れています。休みの日を使って、農家さんのお手伝いにも行きたいと思っています。

活動の前半は守り、これからは「攻め」でいこうと。写真ももっと撮りたいし、イベントなどにも、もっともっと積極的に参加したいです。残り半年、精一杯頑張ります。皆さん、これからもお世話になります。

千葉遥加（ちははるか）

千葉県柏市出身 緑のふるさと協力隊員第16期生

緑のふるさと協力隊とは

特定非営利活動法人地球緑化センターが実施する、農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣する事業。協力隊員たちは、農林畜産業など担い手が不足する第1次産業や、新しい刺激を求めている観光施設などで、隊員活動に励み、地域の活性化に貢献する。遥加さんは第16期生、川根本町3代目の隊員。

